

風流のはじめ館

2023
第19号
11月号

<https://s-furyu.jp/>

展示品の紹介



秋の日や鳴いてねむりし枝蛙 渡辺水巴自画賛

たつぷりの余白がうつくしい。印象的な烏瓜の実。花は、夏の夜、一夜限りに咲く、白いレースのような美しい花。

ちいさな雨蛙、どこにとまっているのだろうか。

芭蕉翁句賛

夏目成美自画賛

翁像には明るい顔、ひきしまった顔、旅で疲れている顔などが描かれていて楽しい。つぶらな目に大きな鼻といった面相でとても人の好きそうな芭蕉さんである。



河童の図

小野塚響子画



月夜の下、歌舞する河童。人々が河童を身近な存在とした時代なのでしようか。可愛い、可笑しい、捉えどころのない不気味さがある。



開館記念展

俳画にあそぶ 開催中です。

開館3周年



俳画

第一人者

「俳画」は、自然の風物を大胆な省略とリズムを持つ筆の運び、余白の妙が織り込まれた季節に敏感な日本人の生み出したものです。

本展では、自然や植物、優しさや遊び心を感じさせる愛嬌のある画など、味わい深く興味つきない俳画を紹介しています。

時に緩やかに、時に大胆に、そのまたある時は繊細に紡ぎだす豊かな世界をお楽しみいただけます。

遊び心から生まれたもの

文学と美術のコラボレーション

束縛のない自由な世界

余白の美

俳句につきすぎず、離れすぎず

達筆な巧みより、

むしろ稚拙の面白さが尊い

そもそも

俳画

俳句と画が渾然一体の独自の新境地を拓いた与謝蕪村。芭蕉に憧れ、生涯の大半を旅に明け暮れ、漂泊を創作の糧にした。大和絵、南画、山水画などさまざまな画風の作品から、頼りない線、ぶっきらぼうな形、かすかすの墨でさらりと俳諧的機知を盛り込み、その手際は硬柔、多彩。発想は奔放で枠にとられなく、間違いなく巨匠である。

灯りワークショップ

糸巻ぎ 行灯づくり

10/22(日)



和紙にもんきり（切り絵）やちぎり絵を貼り、古い糸巻ぎをリメイクした行灯づくりをしました。

卯兵衛さんをならおう

蕪村の卯兵衛さんの絵をみて、絵をかいてもらいました。





10/18(水)

季の花のあしらい 花生け教室

野に咲いているように自然な美しさを引き出し秋の花をたのしめます。

秋明菊、紫式部、ホトトギス 野葡萄などたくさんの秋の花の中から生きたい花を選び、花器にいました。参加者同士で鑑賞し合い、とても和やかな雰囲気となりました。

講師 佐久間宗初氏
(須賀川茶道連合会長)



10/14(土)

すかがわ大人塾 志野流香道 香りをたのしむ

「香りを聞く」とは、香りが伝わるものを心で聞きとることをいいます。聞くコツは「静かに深く長く聞く」こと。

複数の香木の香りを聞きあてる組香「月見香」に触れました。香木を順番に聞き、十五夜、待宵、夕月夜など、どんな月の情景が浮かび上がるのか想像を膨らませ聞きあてます。幽玄でたおやかな香りがゆつくり茶室に広がっていました。

講師 藤田宗直氏
(志野流香道師範)



二度咲きした金木犀 小さな花群が甘やかな香りを放ちました。



四季彩の庭



秋季のできごと

積み上げられた和傘がライトアップされた等躬の庭

イベント

二十五弦琴の演奏会が開かれました。



空旅 「奥の細道」 各国からの旅人を案内する翻訳家のアダム・フルフォード氏



地域学習



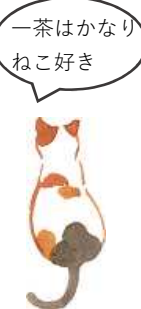
「須賀川市立第一中学校」 NPO法人チャチャチャ 21と須賀川茶道連合会 円流会員の協力でのまちの歴史や茶道文化に触れ、地域の特色を学ぶことが出来ました。

松明

読み方は、火をつけるため「焚松」が長い時間のうちに「たいまつ」と音が変化しました。

一茶忌

一八二七年十一月十九日は、小林一茶が六十五歳でこの世に別れを告げた日です。



言の葉

返り花

木枯しが吹く冬の時期に、春を思わせるような陽気に誘われ、桜やつつじ、たんぽぽなどが季節外れの花を咲かせるさま。



お知らせ 本の貸出し始めました。

3冊まで 14日以内 借られます。

芭蕉関連 俳句 句集 文学 郷土 歴史と文化 日本の暮らし 絵本

◆俳句ポスト 投句募集

などを取り揃えています。

第二回投句×切

一月二十日(土)



文化振興課 公式 Instagram

